

# 4

## のら猫クロッチと目があつて

ご縁ができたその日から そばに寄り添い 共に歩んで 同行二人

たかだ

えみ

# 高田 絵美

公益財団法人オイスカ  
「子供の森」計画 担当課長



©1997,2016 NURUE

「国を越えて協力しあいながら地球環境を良くしていこう」と世界中で活動を展開しているオイスカ・インターナショナル（以降「オイスカ」と省略）は、今年で創立55年目、日本では最も古い国際協力NPOのひとつだ。

「子供の森」計画は、子どもたちをターゲットとしたオイスカのプロジェクトである。「人と自然環境」「人と自然のつながり」を学びながら、『木を植える』行為を通して地域や地球に貢献していく。こんな子どもたちのアクションを応援して、はや四半世紀、今日、世界36か国で展開している。この国際的プロジェクトを統括しているのが高田絵美さんだ。

木を植えて地球の命にふれ  
あう機会を子どもたちに

「生活が大変な国や社会的な問題がある地域で、ひとりでも多くの子どもたちが、木を植えて、生き物や動物、地球の命にふれあう機会をもっとほしいです。」  
こう語る高田絵美さん。海外の子どもたちと接することが多い。「子供の森」計画の活動に参加する子どもたちは、植林をしたり、「ゴミ拾いなどの地域の清掃にみずから進んで取り組み、積極的に意見を述べるといふ。キラキラした瞳で活動する姿を見るにつけ、この子どもたちの成長に関わらせてもらっていると実感する。それがとてもうれしい。やりがいを感じる。そ

して、現地の父兄や先生たちから「緑が増えて村自体が豊かになってきた」と喜ぶ声を聞いた時の感慨はひとしおだ。

しかし、その一方で苦勞することもある。海外では日本人的常識や感覚が通用しないことがあり、予定どおりにも進まないことも多い。そのたびに、現地の人たちと、プロジェクトを支える日本の企業や個人支援者との間にはいつて調整しなければならぬ。そんな時にも、高田さんは、それぞれの文化を尊重したいと考える。「支援する側」と「支援される側」の双方が対等の立場でありたい。そのため、こちらの要望を押し付けるのではなく「いっしょに地球環境のためにできること

をやっていく」姿勢を大切にしているそう。日本人側にも現地の状況を理解してもらえるように「相互理解」のためのアクションが常に欠かせないという。

海外に支局があり、大勢の現地スタッフがいる「子供の森」計画プロジェクトは、現地の人たちが同じ気持ちと志をもって、現地のリーダーが育たないとできない仕事だという。活動に参加していた子どもが成長し、今は先生として指導にあたるケースも少なくない。

「世界的に環境問題が改善されて、動物たちの命、他者の命を大切にできるような子どもたちが育ってくれるといいなと思うんです」。高田さんはじめスタッフの人たち、「子供の森」計画に

働き、日本のことだけ、自分の暮らしただけに目線がいきがちだったという。そのうちに心の中で「よりグローバルな視点で海外の人たちと共に仕事をした」「NGOで活動したい」という思いが募っていった。

当時、最も関心があったのが、「食」と「農業」の問題。「食はすなわち農業」だ。そして「農業」と「地球環境の保全」、このふたつの問題に取り組んでいたのがオイスカだった。しかも、環境教育を学んでいたこともあり、「地球環境問題をわかりやすく伝えていきたい」と考えていた高田さんにとって、「子供の森」計画は運命的な出会いだった。

最初インターンとして入団してから7年がたった今日、海外のスタッフたちが正直に気持ちを話してくれるようになり、こちらも無理を言えるような仲間になってきたという。

### 自分を動物に例えるなら

オイスカは世界各地で活動を展開する大組織だが、プロジェクトベースで動くためいろいろなことにはチャレンジできる。海外出張も多い中、どんどんアイデアが浮かんでくるが体はひ

とつ。これが悩みだ。「手を広げすぎておこられます」と苦笑する高田さん。自分を動物に例えるのと、「こまめに動くからリスです」と即答してくれたが、スタッフからは「マグロ」と言われた。常に動いていないと死んでしまつから。確かに！

### 世界の空はひとつ

「クロッチはのら猫でボーダーレス。動物の視点で社会問題を考えようとしている。だからオイスカの活動現場にたくさん行って欲しい。そして、国境も偏見もないクロッチの目線で、国境を越え、人と人や、人と動物をつなげる役目をしてほしい」  
「世界の空はひとつ」。最後に素敵なメッセージ。オイスカの創業者の言葉だ。「ひとつの空のもとでオイスカの現場を走りまわり多くの人や動物を惹きつけ、一緒に未来に向かって頑張っていけるようにつなげていってねクロッチ！」ガッテンだ！

■高田絵美（たかだ えみ）  
愛知県生まれ。国家公務員を経て2009年にオイスカの国際協力ボランティア制度によりフィリピン各地で植林や環境教育のボランティア活動に従事後、東京本部勤務。現在、海外事業部「子供の森」計画 担当課長

「子どもたちは国境の中に住んでいるけれど、これからの社会問題、環境問題は国境を越えていかなければならないのです」



オイスカ・インターナショナル（OISCA）（The Organization for Industrial, Spiritual and Cultural Advancement-International）のアルファベットの中の頭文字3文字、ISCはIndustrial, Spiritual and Cultural のことで、「人々が生きるための産業、スピリチュアル（心）、文化、この3つすべてを欠けることなく共に発展させていこう。」と、それぞれの国の自然と共生した豊かな生活を求めて活動している。